

# 第42回児童生徒 読書感想文コンクール

児童生徒読書感想文コンクールに、多くの優秀な作品が寄せられました。  
先月に引き続き、最優秀作品を紹介します。

## ■中学校3年生の部 最優秀賞 命を救うためにできること

弟子屈中学校 吉田 花月さん



私は動物が好きだ。なぜなら、私より大きな体だとしても、小さな体だとしても、自然の中で、とてもたく

ましく生きていて、それぞれの豊かな個性はそのままに、共存しているからだ。自分達の都合にはかり合わせてしまう私達人間よりも、そんな動物達の方が立派に思えてしまうことだってある。だから私は、動物に心をひかれる。

それが私の、本屋を訪れて見つけた、この本を読むきっかけとなった。手にとって、犬に関する本と知り、読もうと決めた。あなたは、捨て犬や捨て猫、虐待を受けている動物がいるというのを知っているだろうか。私は、そのような場面に遭遇したことがある。私が小学四年生くらいのころに、捨てられてしまったと思われる子猫が家に現れた。幸い、私の家で保護されたが、今思えば本当に捨て猫だったとしたら、なぜ、その人はそのような行動をしたのだろうかと考ええる。きちんと最後まで成長を見届け、世話をできないのなら飼うべきではないのではないかと思う。私のこの考えは、この本を読んで、少し変化した。この本にも、虐待を受け、捨てられた犬の話がある。その話は、一番印象に残っている。誰かが近づいただけで、パニックを起こし

てしまうほど、ひどい仕打ちを受けていた「キー」。別の話で、このような文章がある。

「愛したり愛しただけ、愛を返してくれ。しかし、この犬は愛してもらえなかった。それは、とても悲しいことなのだと思う。本来なら、信頼し合えるのに、信じることもできず、大には恐怖ばかりが芽生える。それなのに、その飼い主たちは幸せそうに、何もなかったかのように暮らす。なぜ、何もしていない犬がそのようなことにならなくてはならなかったのだろうか。そう考えると、時によっては人間はとも自分勝手なのだなと感じてしまう。しかし、この話に登場する真波という女性の言葉に、とても心を打たれた。それは、

「この子をそんな風にしたのは人間なんですよ。だったら、人間がこの子を癒してあげない」と

という言葉である。私は、この言葉にすごく共感した。傷を付けたのが人間なら、その傷を治すのは、人間の役目なのだと考えた。そして、話の中で犬が心を少し開いてくれたときには、心からほっとしたと同時に、こうするべきなんだ、と思うようになった。

しかし、やはり、そのような状態や、捨てられてしまう動物が出てくることは防がなくてはならない。そこで、私は、もう一つ共感できる話があった。それは、見た目で選んでしまった犬をしつける、というような話だが、この話を読んで、改めて、生き物を飼うときにきちんと責任をとることの大切さがわかる。この話の中でも、見た目の可愛さにつられて飼いはじめたけれど、

## ■高校生の部 最優秀賞 人生に不可欠な絶対法則

弟子屈高校1年 谷田 優花さん



「思いを変えらる。ことで人は変われる。」

本当だろうか。思いが変われば行動が変わり、そして自分自身が変われるのだろうか。そんな疑問を持っていた。

この本の著者は聞いたことがなかった。普段読む本はきまって同じ著者はかり。そんな私がこの本を手取るきっかけはタイトルだった。選んだ理由はただそれだけだった。

私の目にとまる言葉はたくさんあった。一つ目は「感情の瞬間はバランス感覚が失われ、自分の意見が絶対的に正しく、相手の意見は間違っていると思いがち」

思い当たることがあった。小学生のとき、話し合いのときは必ずと言っていいほど、もめていた。誰も相手側の意見を聞き、受け入れることをしなかった。今思えば、それは偏見に満ちたものでしかなかったと少し反省した。

「たれかを守るための不正は許されるべきがある。たれかのためなら嘘をついてもいい。」  
こんなことを聞いたことがある。だが、それに反対した言葉があった。

「いかなる状況にあっても、不正が正義になることはなく、嘘に人を救い、守る力などない。」

確かにそうだと感じた。大切な人のためといって犯していい罪などない。相手を思っただけで、自分がどういふ状況になったとき、嘘をつかずにいられるだろうか。自分についてしまわれないだろうか。そう思ったら、本の言葉が正しいのか、私には答えを出すことができなかった。

私の心に一番残っているのは、「自分の欠点を他人のせいにしてはいるうち、それを克服することなど不可能」という言葉だ。小学生のころはよく思っていた。「今のは私のせいじゃない。あの子が悪い。」なんて私だけ怒られるの。あいつのせいなのに。」と。だが、周りの人が口にしてこいつという言葉を使っているの。聞いてたとき、「私、いつからこんな嫌な人になっていたの。私、どう気がついた。それから人は人のせいにするのをやめた。」まじがっているのは私だ。「と思うようになり、それから少し変わった気がした。昔と比べて性格が少し変わったのかも知れない。そんな経験をしたからこそ、この言葉は一番心に残った。

性格について、こんな言葉があった。「性格は固まっているものではない。」これにはとても共感した。「これは私の性格だからどうしようもない。」と言う人もいたが、昔の経験があったからこそ、本の言葉にはとても共感できた。性格は変えられるのではないのではなく、変わろうとする努力をしていないのだと私は思う。自分の限界

はここだと自分で決めつける。そういう考えには発展も未来もないと感じた。私も昔の感情をたち切れたわけじゃない。腹が立ったときやイヤイヤしたときは短気になり、他人に当たりようになる。だが、この本のこの言葉を読んでから私の考えはより前向きなものへと変わった。「自分の欠点を知り、認め、正面から向き合い、努力することが、新たな自分になるための一歩なのだ。」と。生まれ持ったもの「そんなもの関係ないのだと学んだ。これからは、自分という人間をよく理解し、自分がどうあるべきなのかをよく考え、生活していきたい。賢明な人びと」というのは

「自分の行いがもたらす結果ではなく、行いそのものを気にかける。」  
みたいだ。結果がどうであれ、ただその行いが正しいかどうかを重視する。そうすればちよっとしたことでも悩んだり、不安感にさいなまれることもない。そうだ。この本には「すべての苦しみや悪意を心から取り除く」と書いてある。極端なことを言っているようにも思えるが、間違っているようにも思えない。そういう感情がなくなれば、結果を気にすることなく行動ができる。だが、そういう感情がなければ、人は考えることをしなくなるのではなか。正しい行動には、いい結果がでると考えてしまうのではないかと思つたからだ。かといって、不安な心がある、考えなしでは行動できないのではないか。そう考えると、苦しみや不安感、悪意などは、人生において、よくも悪くも動く感情なのだと感じた。こいつら感情が必要かどうかは、わからなかった。

世話が大変だった、という部分がある。これは、事前にきちんとその種類のことについて知っておくことが防げることができたかもしれないのだから、しっかりと準備をして、よく考えてみるべきなのだと思う。そうすれば、きつと捨てられてしまったりする動物を減らすことにもつながるはずだ。

私は将来、動物に関する仕事に就きたいと考えている。また、動物を飼育してみたいとも思う。そして、この本を読んで、もう一つの考えがうまれた。それは、人間のせいで大変な目にあつた動物たちを助けたという考えだ。今はまだ難しいけれど、いつか、一匹でも救うことができるようになりたいと思う。

この世に産まれた動物たちが、幸せに暮らせる時が来ますように。

書名『ソウルメイト』

馳 星周 著

（寸評）人間は犬と言葉を交わせない。けれど、人は犬をよく理解し、犬も人をよく理解する。本当の家族以上に心を交わし合うことができる。また犬を傷つけるのは人間であり、それを癒せるのも人間。作者の感じ方をしっかりと受け止めたことがよくわかる感想文ですね。吉田さんが将来動物に関わる仕事に就き、その仕事を通して周囲の人にも動物を思い遣る気持ち、動物を理解することの大切さ、動物を飼育することの責任を伝えられるよう願っています。

※生徒の学年は、コンクールが行われた平成28年度当時のものです。

「私は不幸だ。」  
こんなことを考えるときがあった。だが、本を読んで知った。最後にこんな言葉があった。

「わたしたちの幸福をつくるのは、環境や出来事などではありません。」思いによって人はつくられ、そして、それは望むままに変えられるのです。人は、自分が考えたような人間になる。」  
最初に言った「思いを変えらる。ことで人は変わる。」とは、こいつらことだったのだ。思いによって人はつくられている。だから、思いを変えらる。ことで人は望んだようになる。こいつらことなのだ。そうすれば、幸せは、自分の手でつかむことができるのだと感じた。

私たちの行動、口にした言葉、感情、出来事、環境、結果、心、思い、人、身の周りのもの、出来事、これらにはすべて理由があったのだ。つまり「起る事」には、すべて意味があったのだ。

書名『起る事』にはすべて意味がある『

ジェームズ・アレン 著

（寸評）谷田さんはこの本を読み、思いを変え、変わった（成長）のですね。

自分の過去の行動と現在の行動を振り返りながら、自問自答し、これからも大きく成長し、豊かな人生を送りたいという思いが切々と伝わってきます。すばらしい本に出会うことができたのです。たしかに「自分を愛する」ことは難しいことです。しかし、周りに起こっていることを「他山の石」として成長できることは、人間に与えられたすばらしい能力だと思います。

ますますの成長を期待しています。